



危険まで携帯させない親心

平成21年5月、三豊市PTA連絡協議会総会で、三豊の子どもを携帯電話やインターネットの危険から守る行動アピールが出されたときのキャッチフレーズです。これまでに浦島伝説でも紹介しました。

昨日、ケータイ安全教室を行いました。テスト終了後の蒸し暑い体育館という悪条件の中で、生徒たちはよく聞いてくれました。その後、各教室で感想を書いたり、資料を見たりしながら、携帯電話の便利さと怖さについて勉強しました。そして、改めて、私たち大人にも責任があると感じました。

「三也1800 莓佐保でリア厨」って何？

中高生に人気がある携帯電話のプロフ（自己紹介サイト）への子どもの書き込みだ。「三也」を横に並べると「池」。「1800」は「18:00」。「莓(いちご)」は「1万5千円」。「佐保」は「援助交際(サポート)」。「リア」は「本物(リアル)」。「厨」は「中学生」。つまり、「池袋午後6時、1万5千円で援助交際しませんか。本物の中学生です」という意味。少女が売春などの被害にあう事件は、出会い系サイトからプロフなどの一般サイトに移っている。サイトの規制が厳しくなると、電話番号やメールアドレスに文字や記号を紛れ込ませたり、隠語を使ったりする人が出てきた。

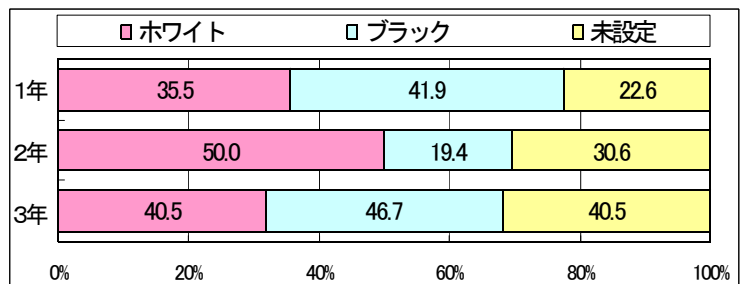
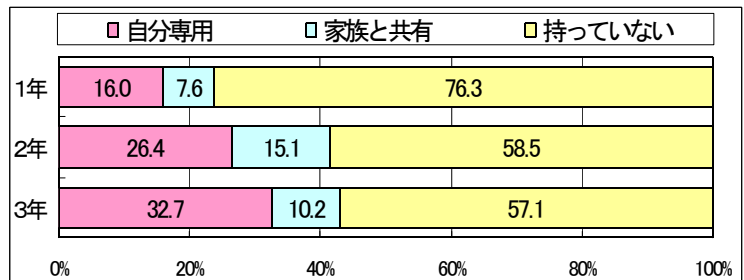
協会への相談の中には、面白半分で薬物に手を出して抜けられなくなり風俗で働かされたり、小遣い稼ぎのために自分の裸の写真を見知らぬ男に送って「学校にばらす」と脅されたりしたケースもある。

専門家は、「携帯を買い与えておいて、使い方を教えない親は無責任すぎる」と話す。また、「子どもを守るためにも、説得してフィルタリングをかける必要がある。それには、日頃から子どもの顔色を見るのではなく、ちゃんと向き合って親子関係を築くことが大切」と指摘する。

※ ケータイ安全教室資料（2010.6.9付け朝日新聞）から一部引用

さて、右のグラフは6月上旬に実施したアンケートの結果で、本校の携帯電話に関する実態がわかります。自分専用の携帯電話を持っている割合は、学年が進むにつれて高くなっています。また、そのうち、フィルタリングをかけていない割合も、学年が進むにつれて高くなっています。「ホワイトリスト」とは、安全なページにだけアクセスできる設定をしているもの、「ブラックリスト」とは、危険なページにはアクセスできない設定をしているもので、「ホワイトリスト」の方が安全です。

詳しいデータは、PTA夏季懇談会で紹介する予定です。各家庭でも、携帯電話について一度話し合っていたいただきたいと思います。



風景が変わりました

昨日、生徒会スローガンの横断幕がリニューアルし、地域の方にもお披露目されました。また、用務員の本田さんが、校門や玄関付近に松葉ボタンやアゲラタム、ポーチュラカなどの花を植えたプランターを設置してくださいました。花があふれる学校っていいですね。

風景が変わると、そこで生活する人々の気持ちも変わるはず。笑顔の花もいっぱい咲かせてほしいと思います。

